

▼フレンズコーナー

「土木技術映像」をみよう

土木学会/土木技術映像委員会 幹事長
（一財）全国建設研修センター

榊山 清人



土木技術映像とは

土木事業は、工事の過程では一般の方々はなかなか立ち入ることができない。また、完成後も、皆様の目に触れない部分が多く、いわゆる単品生産で長期かつ大規模なものも多々ある。とりわけ大規模プロジェクトは、興味や関心があっても、その全体像や土木技術などを実際に見て把握するのは容易ではない。それを見えるようにしたものが土木技術映像である。

土木技術を記録したドキュメンタリーとしての映像作品は、工事記録や災害記録、土木にかかわる人物や事業の歴史などを中心につくられている。実写とアニメーションを組み合わせることで視覚的に分かりやすく、かつ短時間にまとめ映像化されたものもある。映像作品は、どれも制作に時間と費用がかけられ、高密度で重要な情報があるにもかかわらず、一般的には見る機会が少なく、その作品の存在すら知られていないのが現状である。

委員会の目的とその歩み

土木技術映像委員会は、「土木技術者の啓発ならびに土木技術の普及を効果的に行うため、土木技術に関する映像について研究し、それを効果的に活用することにより、土木技術の継承および共有化を推進すること」（規則第1条）を目的として活動している。

当委員会では、土木技術に関する映像作品を網羅的に調査・収集・整理し、多様な角度から評価し、土木図書館土木技術映像ライブラリーや当委員会サイトの映像配信システムなどを通じて容易に利用可能な環境を整備し、あらゆる機会を通じて公開・発信する場を設ける活動を行ってきている。

市民社会をつなぐ主な活動

【イブニングシアター】

定例上映会として定着し2001年以降20年間で108回開催、その他特別上映会を4回、全国大会映画会を10回実施している。会場は土木学会講堂のほか、大学の階段教室、市民ホールなどを活用して、会員をはじめ、一般市民の方々にも広く公開している。参加者数は学会講堂では50人～100人、市民ホールなどでは200人～300人を集めている。一般の方の割合は6割から7割を占め、学会のイベントとしては異色のものとなっている。

特に、イブニングシアターが一般の方々にも注目されるようになったことを決定づけたのが、2009年に上映した『黒部の太陽』特別上映会（コミュニケーション委員会と共催）であった。当時は、まだ石原裕次郎の遺言を守り、映画館の上映やCDの販売などはされておらず幻の作品であったこともあり、午後の部と夜の部の2部構成で、合わせて2,000人以上の方々が大蛇の列を作って参加する一大ビックイベントとなった（写真-1）。

『黒部の太陽』の宣伝効果は高く、その後も、記録映像『黒部ダム』や映画コンクール受賞作品『パッテンライ』『民衆のために生きた土木技術者たち』など技術者から一般の方々まで、様々な分野の方が参加されるイベントとし



写真-1 「黒部の太陽」上映会

て定着し、今では、予約申込をしてから数日の間に、すぐに 100 名を超える予約が殺到し、土木学会講堂での開催では、参加を断わらなければならないほどの盛況を呈している。

【土木学会選定制度と映画コンクール】

土木学会の土木技術映像選定制度（土木技術映像委員会所管）では、土木技術映像を、分野（河川、道路、橋梁、ダム、トンネル等）、対象者（土木技術者・土木関係者、土木系学生、小・中学生、一般社会人）及び専門性の度合い（工事記録・技術研究紹介等専門性の高いものから、土木一般・啓発・教育など一般的な内容のものまで）などの切り口で分類して評価し、優れた土木技術映像を顕彰し広く公開する事業を行なっている。1970 年以來これまでの選定応募数はおよそ 1300 件、そのうち 550 件ほどが土木学会選定映像に選出されている。これらの中で特に優れた映像は土木学会映画コンクールに推薦される。当委員会では映画コンクールの審査・運営の支援も行なっている。

『土木学会映画コンクール』は、1964（昭和 39）年に第 1 回が開催されてから 2012（平成 24）年の第 25 回で 50 年を迎えた。2013（平成 25）年 3 月末にはその地道な活動が、土木学会映画コンクール受賞作品特集として「長大橋の基礎を築く 第 3 部本州四国連絡橋 南北備讃瀬戸大橋 7A」、「富士山を測る」、「青函トンネル」、「街の一体化と安全のために」、「パッテンライ！！」の 5 作品がタモリ倶楽部に取り上げられ（写真-2）、本委員会委員長が出演するなど一般の人々に知られる機会も一層増えてきている。



写真-2 タモリ倶楽部での上映の一コマ

【映像作品の多様な価値の活用研究】

映像作品の教育場面など活用事例の研究や映像に見る技術変遷の研究などを行っている。

特に、最近では映像発掘調査により土木図書館に眠っていた戦前映像 5 本を発掘し、そのうちの 1 本「勝鬨橋」（モノクロ、無声）は 1940（昭和 15）年頃の作品で、現在では見られない橋の開閉が行われている貴重映像であり、東京都への複製贈呈式では NHK をはじめとするテレビ関係や新聞各社に取り上げられた。また、これをもとに東京都が企画し当委員会が橋の構造、橋の建設に携わった人々、橋の建設に至る経緯などの解加えて製作し、2013（平成 25）年 11 月の土木の日週間に新宿駅西口広場で「勝鬨橋 解説版（復刻版含む）」（写真-3）を初公開した。



写真-3 お宝映像 勝鬨橋（昭和 15 年）

【『土木映画の百年』発刊】

当委員会では 2014 年 8 月 25 日に『土木映画の百年 土木技術映像 100 特選ガイド』（発行：言視舎、1,800 円、A5 判 176p）を発刊した（写真-4）。この『土木映画の百年』は土木学会 100 周年ということで、100 にこだわった記念出版である。

構成は 1 部では年代ごとの映像の特徴を年代の背景とともに示し、2 部では、選ばれた 100 本の映像を、書誌情報に委員が取りまとめた概要とお勧めポイント、評価（五つ星）、主なアンケート意見と映像イメージ画像で 1 作品 1 ページで紹介している。

土木に関する映画（映像）を紹介する出版本は今までにないと思われる。われわれの委員会では、さらなる土木技術の理解していただく意味でも、全国の学校の授業や一般の方たちにも是非活用されることを願っている。

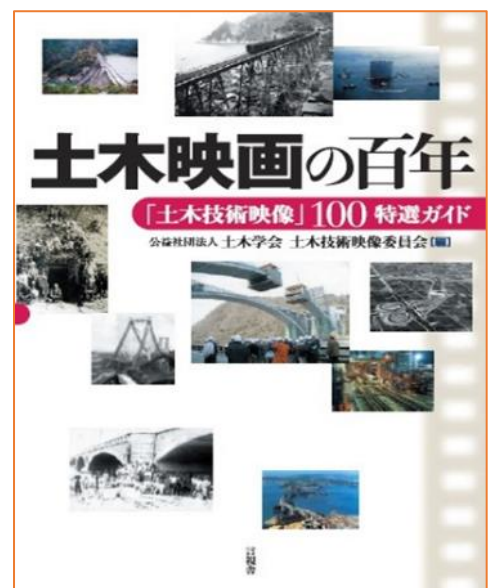


写真-4 土木映画の百年